

第 1 学年 生活科学学習指導案

1. 単元名 「あつまれ！さぎぬまのもり！ ～あきまつり～」

2. 単元について

本単元は、生活科の教科目標である「具体的な活動や体験を通じて、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」の中における、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等の基礎）」と「身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自身をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）」ための活動や体験として教育的価値を存する。その目標達成に向けて、学習指導要領の生活科の内容（５）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」と（６）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」に基づき指導を行う。

自然が色鮮やかに変化する秋は、四季の中でも変化に富み、遊んだり作ったりするには大変良い季節である。しかし、本校の校庭では、秋を感じられる自然物が少ないというのが現状である。本単元では、学習の導入に学校の近くにある公園を探検することで、児童には秋との触れ合いをもたせる。そこから秋の自然を生かした飾りやおもちゃを工夫して作ったり、遊んだりすることで、季節の変化や、秋特有の自然のよさに関心が高まると考える。活動を通して、児童が諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり自分なりの思いや願いをもち、進んで自然とかかわったりすることで、自然と一体になりながら四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにすることを目指している。

また、あきまつりを開くことで自分たちの作ったものを相手に伝えたいという気持ちや友達の作ったものを知りたい、やってみたいという意欲をもつことができると考える。あきまつりには、普段お世話になっている６年生や１学期にこまランドに招待してくれた２年生を招待し、異学年での交流を図っていきたいと考える。

3. 児童の実態

入学してから、半年が経ち、入学当初よりもクラスの友達に進んで声を掛けたり、助け合ったり関わり合う場面が増えるようになってきた。1学期の朝顔を育てる活動では、朝顔に毎日水をあげ、日々変化し成長していく様子をじっくりと見ては、その喜びや嬉しさを友達と共有する姿がみられた。言葉として伝えあったり、文章にも表したりすることができるようになり、表現の幅が広がっている様子がかがえる。

本単元を構成するにあたり、児童の「あき」に対する意識調査を行った。

児童の実態アンケート 7月19日実施 (計117名)

1 せいかつかの じゅぎょうは すきですか。			
だいすき 73名	すき 41名	きらい 2名	だいきらい 1名
・しゃぼん玉とかいろいろなことができるから。 ・たのしいことがいっぱいだから。 ・学校のことがしれたから。 ・学校が好きになれるから。 ・ともだちと仲よくできるから。 ・ワークシートを書くのがすきだから。 ・朝顔を観察できるから。		・めんどくさいから。	
2 「あき」ときいて おもいだすものを かきましょう。			
・どんぐり ・もみじ ・まつぼっくり ・おちば ・いちょう ・かき		・きのこ ・さつまいも ・おちばのおふろ ・くり ・りす ・とんぼ	・お月様 ・おまつり
3 あきのみや おちばなどを つかって あそんだことは ありますか。			
はい 64名		いいえ 53名	
・はっぱのお面 ・たきび ・おちばあつめ ・どんぐりあつめ ・おちばをいっぱい持って上に投げた。		・はっぱを集めてかたちを作った。(星、ハート) ・はっぱで顔作り ・はっぱ投げ ・どんぐりゴマ	
4 あきのみや おちばなどを つかって あそびたいと おもいますか。			
はい 69名		いいえ 48名	
・おちばを紙に貼る。 ・いちょうをかけあいっこする。 ・はっぱに絵をかく。 ・風でおちばをとばす。 ・はっぱを拾って、上に投げる。		・おちばをたくさん落とす。 ・ボールにする。 ・たくさん集める。 ・ゆきだるまをつくる。 ・きれいなおちばをひろう。	
5 あきのみや おちばなどを つかって つくりたいものは ありますか。			
はい 64名		いいえ 53名	
・はっぱでお面をつくる。 ・どんぐりゴマをつくる。 ・おちばを紙に貼る。 ・アクセサリー(ネックレス)をつくる。 ・かぶりものをつくる。		・動物 くま、りす、ハムスター、うさぎ ふくろう、パンダ、たぬき ・ロボット ・山・家	

質問1「生活科の授業は好きですか」では、前期の単元のアンケート(5月23日実施)では、「だいきらい」と答えた児童が10名いたのに対し、今単元では、「だいきらい」が1名になった。しゃぼん玉遊びや朝顔を育てることなどを通して、友達と活動を共にしていく楽しさや、今まで知らなかったことに会える楽しさを感じている回答も増え、生活科に対して肯定的な考えをもつようになってきたことがわかる。

質問2「秋ときいて思い出すもの」では、「どんぐり」「まつぼっくり」「もみじ」「おちば」などの代表的なものをあげた児童が多かった。しかし、ほかの秋の実や具体的な落ち葉の種類はほとんど上がらなかった。単元を通して、秋の実の種類などを探求していく面白さに気付く場を設定していきたい。

また、質問3「秋の実や落ち葉を使って遊んだことはありますか」、質問4「あきのみやおちばなどをつかってあそびたいとおもいますか」と質問5「あきのみやおちばなどをつかってつくりたいものがありますか」に関しても「はい」と答えた児童は、半数にとどまった。また、「遊びたい」「作りたい」に「はい」と答えたが、何をしてみたいのかについてはあまり具体的なイメージを持っている児童が少ない。このことから、これまでにほとんど秋そのものに触れたり、自然を取り入れて遊んだりしてきていないことがわかる。

そのため、諸感覚を意識して秋そのものを楽しむ活動ができるような場を設定していきたい。また、友達同士での関わり合いの場を設定し気付きを増やしていきたい。しゃぼん玉の単元では、友達との関わり合いの中で、「〇〇さんのしゃぼん玉が大きい!」「真似してみよう!」「一緒にやろう!」「どうやってやるの?」など活動に対しての積極的な発言や、気付きの発言が多くみられた。今単元を展開する上でも、積極的に秋に親しみを感じている児童やまだ秋に対してイメージが持てない児童など様々なことから、友達と教え合ったり、話し合ったり交流しながら、秋についての知的好奇心を高めていきたい。

4. 研究の視点と手立て

<生活科>

① やってみたいという気持ちを引き出せるような教材や事象提示の工夫

- ・導入の工夫
- ・目的意識がもてるような素材の準備(自分の願いをもって取り組めるように)
- ・諸感覚(見る・きく・触れる・かぐ・感じる・なぜ?など)を意識して活動できるような支援

② 伝えたいという気持ちを引き出せるような表現活動の工夫

- ・実物を見ながら考えをまとめる場の設定
- ・友達の考えと比較する話し合いができるような場の設定
- ・見つけたことや気付いたことをかきたくなるようなワークシートの工夫

③ 友達とのかかわりを通して、自分の成長や友達の成長に気付かせる手立ての工夫

- ・友達と一緒に試したり、遊んだりすることができる場の設定
- ・思いや願いを共有し、互いに学び合える関係づくりの支援
- ・単元の振り返りの中で、互いに気持ちを伝え合う場の設定

5. 教師の願い

本校の周囲は住宅街で、校庭の木々の種類もさほど多くはなく、自然環境に恵まれているとは言えない状況である。アンケート調査より、これまでの経験で、落ち葉や木の実で遊んだことがないという児童が全体の半数以上もいることがわかった。木の実や葉の種類についても、「どんぐり」「まつぼっくり」「もみじ」「おちば」といった代表的なもの以外はあまり知らない児童がほとんどである。

そこでまず、近隣公園に出向いて、諸感覚を意識して秋そのものを楽しむ体験や、タブレットでの検索や外出先での経験、教師の見つけた秋などをきっかけに、いろいろな秋に触れたり調べたりする活動を充実させたい。そして、秋の物を使って、どんな楽しみ方ができるかについて考えさせていく。それらが、材料や使う道具によって、さまざまな工夫をすることができる、という制作活動の楽しさを感じさせたり、工夫によってさらに面白いものができた、という楽しさを感じさせたりしていきたい。自分が思い描いている遊びや遊びの道具を作ることは、主体的に考えることができる活動であると考え。さらにより良いものを作ろうと考えようとし、工夫や試行錯誤することで、児童達は、思考力、学びに向かう力を身に付け、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとする意欲や自信につながると考える。

また、制作活動の中で、友達と教え合ったり助け合ったりすることのよさや、お互いに認め合うことのうれしさも感じさせたい。

6. めざす子ども像とのかかわり

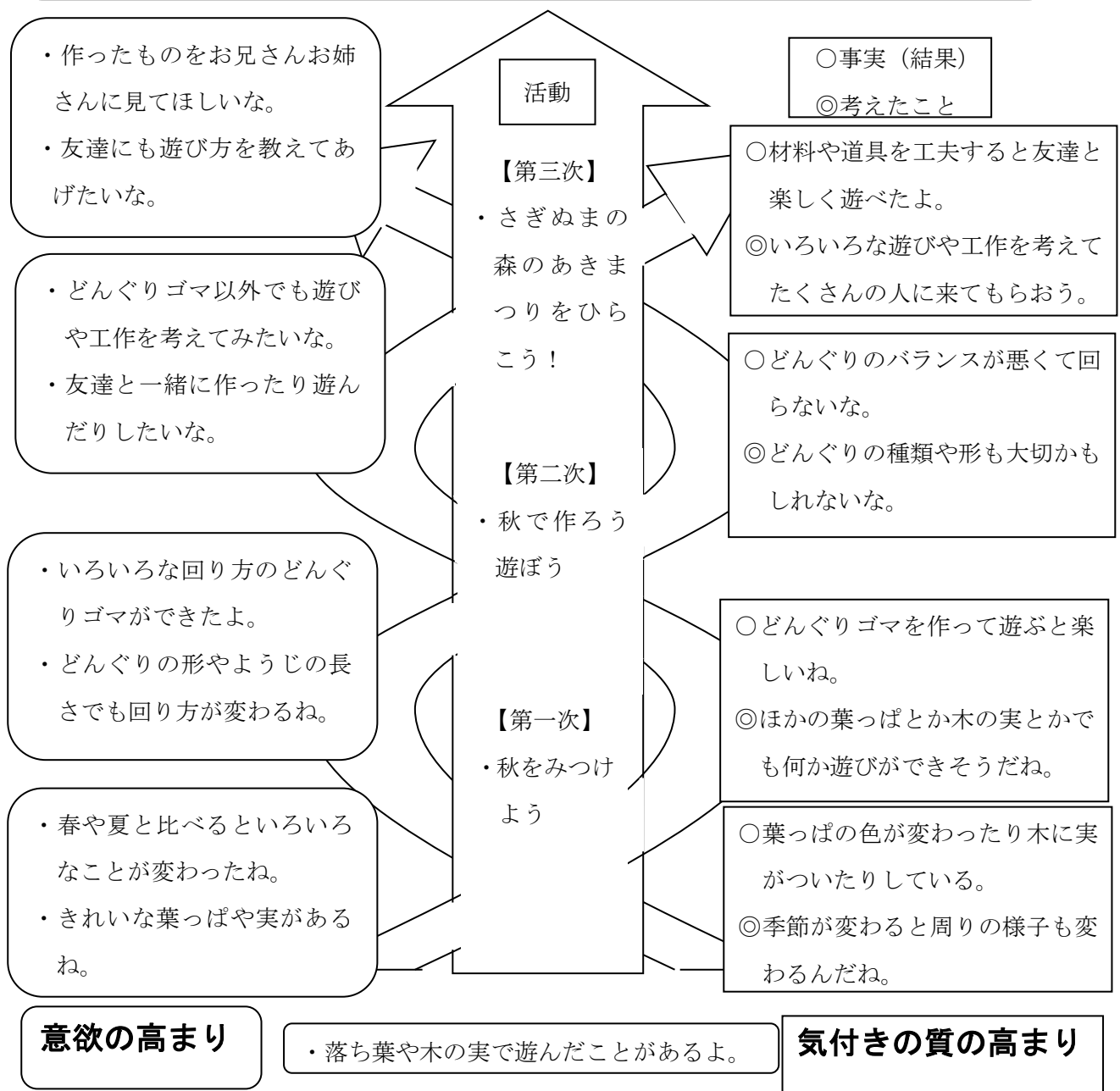
「知的好奇心あふれる授業の創造」～自分の願いをもってともに活動する子を育てる手立ての工夫～

(1) 低学年部会のめざす子ども像

自然や身の回りの事物・現象に興味・関心をもち、事実をしっかりと見つめ、「見つける」「比べる」「たどる」ことができる子

(2) 単元でめざす子ども像

- ・材料や作り方を変えると、いろいろな遊びができるんだね。
- ・友達の工夫もすごいな。教えてもらったらできたよ。嬉しいな。
- ・作ったものを紹介したら友達が楽しんでくれたよ！



7. 単元の目標

【知識及び技能の基礎】

- ・身近な自然や生活、秋らしものから、季節の変化に気付くことができる。
- ・自分が作ったものを紹介したり、友達の紹介を聞いたりして、自分の成長や友達のよさや自分との違いに気付くことができる。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

- ・願いをもって、遊びに使う材料や作り方を考え、遊び方を工夫することができる。
- ・秋遊びを通して、一人で活動したり、友達と比べたりして、気付いたことや工夫したことを伝え合うことができる。

【学びに向かう力、人間性】

- ・進んで秋のものを発見したり、秋のものを使ったりして、意欲的に楽しく活動しようとしている。
- ・自分が望むものを作るために、道具を選んだり作ったりしようとしている。

8. 活動計画と予想される子どもの姿（20時間扱い）

次	時	◇活動計画・予想される子どもの姿	●手立て ◎評価 ○留意点
一次 「秋をみつけよう」 （4時間）		秋を探そう。（あきみつけ）	
	1 ／ 20	◇アサガオの観察をし、かわったところを話し合う。 ・花が咲かなくなった。 ・花の咲いた後、種ができたよ。 ・葉っぱが枯れているよ。 ・家の近くのヒマワリも、枯れていたよ。 ・アジサイは、咲いていない。 ・咲いている花が変わったよ。	●夏に撮った写真や夏にかいた観察カードと比べて、変わったところに着目させるようにする。 ◎アサガオの観察を通して、夏と比較しながら違いを見つけ、秋について考えているか。（行動・発言）
	2 ・ 3 ／ 20	◇城址公園で探索をする。 ・家の近くと同じ花が咲いている。 ・バッタがいっぱいいるよ。 ・どんぐりが落ちているよ。	◎進んで秋探しをしているか。（行動・発言） ◎身近な自然を観察し、秋になった自然の変化に気付いているか。（行動・発言）
	4 ／ 20	公園や神社で秋のものを見つけたよ。 集めた落ち葉や木の実で、何か作ったり遊んだりしたいな。 どんぐりや葉の形はいろいろな形があったから、調べてみたいな。	
		見つけた秋について調べよう。	
	4 ／ 20	◇公園や神社で拾ってきた、どんぐりや落ち葉についてタブレットや図書室の本で調べる。 ◇タブレットでの検索、図書室の本、家の人にインタビューなどをもとにして、秋のおもちゃや飾りで、作ってみたいもの、やってみたい遊びを考える。 ・どんぐりゴマを作りたいな。 ・どんぐりが通れる迷路を作ってみたい。 ・たくさんの落ち葉で、落ち葉のお風呂ができるかな。 ・まつぼっくりで、ボーリングをしたい。 ・落ち葉でカルタが作れるかな。 ・落ち葉や木の実でマントを作りたい。	○タブレットや本などを見ながら調べるだけでなく、木の実や落ち葉に触れたり観察したりしながら、思ったことを生かすよう声をかける。 ●児童が呟いた思いつきや発想に対して、否定的な言動は避け、自由に発言できるような雰囲気づくりに努める。 ◎秋の自然の物を使って、どんな遊びや物作りができるか進んで考えているか。（行動・発言・ワークシート）
		作りたいもの、やりたい遊びがいろいろあったよ。 どんぐりゴマは、人気があるね。→みんなで作ろう。	

第二次「秋で作ろう遊ぼう」(6時間)	5 ・ 6 / 20	4組展開	秋で遊ぼう。(どんぐりゴマの手作りタイム)	
		◇どんぐりゴマを作り、どんぐりゴマ遊びを楽しむ。 ・どんぐりゴマの軸は、普通のコマみたいにまっすぐにしよう。 ・回すとすぐに倒れちゃう。どんぐりに穴を開ける場所も大事かも。 ・軸の位置は、真ん中にした方がいいかな。 ◇誰が一番コマを回せるか、コマスターを目指そう。 ・軸は短い方がいいかな。長い方がいいかな。 ・どんぐりの種類や形も大事かもしれない。 ・どんぐりに顔を描こうかな。	○どんぐりゴマの作り方の手順については、朝学習や休み時間などを使って確認しておく。 ●どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとするために、くるくるこまランドを思い出させたり、何度も試させたりする。 ●自主的にどんぐりゴマに取り組んだ児童からの気づきの発言があれば、ヒントとして紹介していく ◎どんぐりゴマを作り、より工夫しながらどんぐりゴマ遊び楽しんでいるか。 (行動)	
		上手なお友達の真似したら、たくさん回るこまを作れたよ。 回すこつも発見したよ。みんなで競争して楽しかった。 他のおもちゃ作りや遊びもしたいな。		
7 / 20	7 / 20	秋で遊ぼう。(秋のおもちゃや飾りの手作りタイム)	○日常生活でも集めてもらえるように、各家庭に呼びかける。 ○集めた落ち葉や木の実に触ったり並べたりしながら、考えさせるようにする。 ●作りたい物がなかなか浮かばない児童には、本やタブレットの検索などを再度見て考えるよう助言する。 ◎秋の自然の物を使って、どんな遊びや物作りができるか進んで考えているか。 (行動・発言・ワークシート)	
		◇どんな秋のおもちゃや飾りを作りたいか、どんな遊びをしたいかを考える。 ・どんぐりが通れる迷路を作ってみよう。 ・たくさんの落ち葉で、落ち葉のお風呂ができるかな。 ・まつぼっくりで、ボーリングをしたい。 ・落ち葉でカルタが作れるかな。 ・落ち葉だらけのマントやエプロンがほしい。 ・落ち葉の冠やお面もつくりたいな。 →落ち葉で、飾りやお面、マントなどを作ろう。(図工)	みんなで作りたい秋のおもちゃや飾りを考えたよ。 できあがったら、遊ぶのが楽しみな。	
		3組展開	秋で遊ぼう。(秋のおもちゃや飾りの手作りタイム)	
8 ・ 9 / 20	8 ・ 9 / 20	◇秋のおもちゃや飾りを作り、楽しむ。 ・落ち葉や木の実でマントを付けると、森にいる気分になるよ。 ・どんぐりゴマで遊ぶゲームを作ろう。 ・どんぐりが通れる迷路を作るよ。 ・落ち葉のお風呂にクイズのしかけを作ってみよう。 ・まつぼっくりのボーリングを作るよ。 ・落ち葉のカルタを作るよ。	●落ち葉や木の実を使ったおもちゃや飾りの工夫した作り方を見付けることができるように工夫している友達のやり方のヒントを提示する。 ●作りたい物が似ている同士のグループで活動し、必要に応じてグループ内で助言し合えるようにする。 ◎秋の物を使ってどんな遊びをするか考えながら作っているか。 (行動・発言・ワークシート)	
		自分達が作ったおもちゃで楽しく遊べたよ。 他のグループの友達にも楽しんでもほしいな。 他のグループのおもちゃも遊んでみたいな。		

10 ／	
20	秋で遊ぼう。(できたおもちゃや飾りのお楽しみタイム) ◇クラスの友達に、自分達のグループのおもちゃや飾りを紹介したり一緒に遊んだりする ・どんぐりゴマの広場、楽しいよ。 ・どんぐり迷路は、時々止まっちゃう。 →〇〇さんの言う通りに道の幅を広げたら、うまくいったよ。 ・落ち葉のカルタ遊び、楽しいよ。 ・落ち葉のお風呂クイズは、友達に喜んでもらえたよ。 ・まつぼっくりのボーリング、ボールを重くしたら、もっと楽しくなった。 ・もっとたくさんの人に遊んでほしいな。 ・こまランドのお礼に2年生を呼ぼうよ！ ●クラスの友達に自分のおもちゃや飾りを紹介したり一緒に遊んだりする活動を通して、秋の自然のよさや友達のよさを見付けることができるようにしていく。 ◎よいところを見付け合い、自分や友達のよさに気付いているか。(発言)
11 ／ 20	みんなが作ったおもちゃで楽しく遊べたよ。 友達と協力して遊ぶと、もっと楽しくなったよ。 もっといろいろな人に楽しんでもほしいな。 お客さんに楽しんでもらえるお店を考えよう！
	◇どんな遊びを取り入れてお店にするかについて考える。 ・どんぐりゴマのお店で、作ったコマで遊んでもらいたいな。 ・回し方の説明も考えなくちゃ。 ・おちばトンネルでいい音を鳴らしたい。 ・お風呂の中に、クイズのしかけを作ろう。 ・まつぼっくりのボーリングのお店で遊んでほしい。 ○出来上がった作品や遊び方で満足するのではなく、更に改良したり工夫したりするように確認する。 ○グループ内で協力し合うよう声をかける。 ◎どんな遊びや楽しみ方を取り入れてお店作りをするかについて、進んで考えているか。(行動・発言・ワークシート) 秋のおもちゃや飾りのお店を考えたよ。 友達と協力して作るのが楽しみな。

第三次「さぎぬまの森のあきまつりをひらこう！」	12 ・ 13 ・ 14 / 20	お客さんに楽しんでもらえるお店を作ろう！	
		◇自分達のアイデアを生かして、お店を作る。 ・看板やコーナーの見出しも作ろう。 ・お客さんのことを考えて作らなくちゃ。 →お店に、6年生にも来てもらいたいな。 →招待状をつくらう。(国語)	○出来上がった作品や遊び方で満足するのではなく、更に改良したり工夫したりするように確認する。 ○グループ内で協力し合うよう声をかける。 ●グループ内でお店を試し、よかったところや直した方がいいところを伝え合う時間を設ける。(ワークシート) ◎どんな遊びや楽しみ方を取り入れてお店作りをするかについて、進んで考えているか。(行動・発言・ワークシート)
	15 / 20	2組展開	6年生をお店に招待して、アドバイスをもらおう。
		◇6年生を招待して、感想や気付いたことを伝えてもらう。 ・恥ずかしかったけど、6年生がほめてくれてうれしかったよ。 ・6年生も楽しんでもくれたよ。 ・アドバイスしてもらったよ。 ・お店がもっと楽しくなりそう。	○6年生に、予め「お店たいけんカード」を渡しておくようにする。 ●アドバイスを後で見返せるように、6年生にワークシートに記入してもらう。 ◎よいところやもっと工夫するとよくなるところを見つけ合い、自分や友達のよさに気付いているか。(行動・発言・ワークシート)
16 / 20	1組展開	6年生に楽しんでもらえて嬉しかったよ。 アドバイスももらってよかった。 2年生のために、もっと楽しいお店にしたいな。	
		もっとお店をパワーアップさせよう！	
		◇もっと楽しんでもらえるようにクラス内でお店を体験し合い、パワーアップさせる。 ・どんぐりゴマの広場は、タイムを計ってランキングを付けよう。 ・どんぐり迷路の幅を広くしてみよう。 ・落ち葉のカルタ遊び、楽しいよ。 ・落ち葉のお風呂クイズは、友達に喜んでもらえたよ。 ・ボーリングのレーンをもっと丈夫にしよう。	○事前に、6年生からもらったお店たいけんカードを参考にして話し合っておく。 ●お店をよりよくするための方法を考えることができるように、ほかのグループのよさを取り上げる。 ◎お店をよりよくするための方法を考え、遊び方を工夫しているか。(行動・発言・ワークシート)
17 ・ 18 / 20		みんなでお店をパワーアップさせたよ。 2年生に楽しんでもらいたいな。	
		あきまつりをひらこう！	
		◇おまつりのじゅんぴをする。 ・1部と2部の役割を決めよう。 ・お店のものが足りているか、壊れていないかなどを確認しよう。 ・マントや冠も付けるよ。 →招待状をつくらう。(国語)	○前時の学習カードや活動の資料を参考にして、おまつりの準備をするよう伝えておく。 ●グループの中で交代しながら、店員役とお客役になって練習し、手順を確認させていく。

	19 ／ 20	◇2年生を招待して、おまつりをひらく。 ・喜んでもらえるといいな。 ・2年生にわかりやすく説明しよう。 ・お店のみんなで協力しよう。 ◇活動の振り返りをしよう。 ・「いいね！」カードがたくさんもらえたよ。 ・2年生も楽しそうだったよ。 ・お店の仕事を協力してがんばった。	◎活動を振り返り、お店をよくするための改善点を考えているか。 ◎おもちゃやゲームの遊び方、説明の仕方やお店の飾りつけなどを工夫しているか。 【思考・判断・表現】 ●グループ内で困っている様子の児童がいたら声をかけ、助言していく。 ○準備が終わったら、グループ内で店員役とお客役になって、手順を確認させていく。 ●うまく活動できていない様子の児童に声をかけ励ましたり助言したりしていく。 ○「いいね！」カード（付箋）を用意し、2年生によかったところを短い言葉で書いてもらうようにする。 ◎自分のがんばりや成長、友達のよいところに気付くことができるか。 (振り返りシート・発表) ●活動の振り返りを行っていく中で、2年生に書いてもらった「いいね！」カード（付箋）を見ながら進めていく。 秋について、たくさん知れたよ。秋まつりも楽しかった。 いろいろな人に喜んでもらえて嬉しかった。
--	---------------	---	---

9. 本時の指導（5／20）

指導者 4組 宮島 佑太

（1）本時の目標

- ・ どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとしている。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・ どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとするために、くるくるこまランドを思い出させたり、何度も試させたりする。

—②

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される児童の反応	●手立て ◎評価 ○留意点
1	1. 本時でどんなものを作るか確認する。 ・ どんぐりゴマをつくるよ。	○本時の活動内容を簡単に確認する。
	どんぐりゴマを作ってみよう	
7	2. どんぐりをこまにするために、どうすればいいか考える。 ・ このどんぐりのままだと回せないね。 ・ 回すところをつくればいいよ。	○2年生とのこまランドの活動を思い出させるために写真をテレビに映して見せる。
10	3. どんぐりゴマを作る。 ・ どんぐりがなかなか削れないよ。 ・ 真ん中に刺すといいよ。	○活動中、自分の作ったどんぐりゴマがどうか聞いていく。 ○どんぐりゴマを作るための道具を教師が用意しておく。 ○どんぐりの中央に穴をあける時の道具の使い方の約束をし、安全に作れるようにする。 ◎どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとしているか。 (行動・発言・ワークシート) ●どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとするために、くるくるこまランドを思い出させたり、何度も試させたりする。 - ②
10	4. 作ったどんぐりゴマで遊ぶ。 ・ たくさん回ったよ。 ・ 友達と勝負して楽しかったよ。 ・ あまり上手く回らなかった。 ・ ○○さんとどんぐりの形が違うね。	○どんぐりゴマで遊ぶ場所を作り、児童同士で遊ばせる。 ○タブレットで回して遊んでいる様子を写真や動画に撮り、振り返りしやすいようにする。
10	5. 友達の発表を聞いて確かめる。	○次につながるどんぐりゴマの作り方、回し方

7	・〇〇さんのどんぐりの方がたくさん回ったよ。 ・〇〇さんの回し方が上手だったよ。	などを確認する。
	6. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 かたちによってまわりかたがちがう。 もっとつくってたくさんまわしたい。	

(4) めざす児童像についての達成度

達成規準 \ 達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる。	C 努力を要する
どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえることができる。	どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとし、そのための解決策を考えることができる。	どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえることができる。	どんぐりゴマを作っていく中で、自分の願いをかなえようとするために、くるくるこまランドを思い出させたり、何度も試させたりする。 (手立て)

(5) 板書計画

あつまれ！さぎぬまのもり どんぐりの写真 どんぐりの写真 どんぐりの写真 コマの写真 コマの写真	どんぐりゴマをつくろう どんぐりがたくさんまわったよ あまりまわらなかったよ かたちがちがうのがあったよ かたちによってまわりかたがちがう もっとつくってたくさんまわしたい
---	--

（1）本時の目標

- ・落ち葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを自分なりに工夫して作っているか。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・落ち葉や木の実を使ったおもちゃや飾りの工夫した作り方を見付けることができるように工夫している友達のやり方のヒントを提示する。

—②

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される児童の反応	●手立て ◎評価 ○留意点
2	1. 前時までの学習を振り返る。 〈作りたい物〉 ・どんぐりゴマ広場 ・どんぐりの迷路 ・おちばトンネル ・落ち葉のお風呂 ・まつぼっくりのボーリング ・落ち葉のカルタ ・おなもみの的あてゲーム	○学習カードをもとにして、学習を振り返る。 ○作りたい物が似ている同士のグループで活動していく。 ○児童が安全に取り組めるよう、道具の正しい使い方を掲示し、確認しておく。
	秋の物を使って、おもちゃや飾りを作ろう。	
2 3	2. 秋の物を使って、おもちゃや飾りを作る。 ・どんぐりゴマの広場を作るよ。 ・空き箱やペーパーの芯でどんぐりが通れる迷路を作るよ。 ・落ち葉のお風呂にしかけを作るよ。 ・まつぼっくりのボーリングを作ろう。 ・落ち葉のカルタ作りをがんばるよ。 ・おなもみの的あてゲームを作ろう。	○活動中、作品のよいところや友達のよさなど友達に伝えたいことをシートに随時記入してもよいことを伝えておく。 ○どんぐりゴマ作りの経験を生かして活動ができるように前時の学習をまとめた資料を掲示しておく。 ○作品の工夫したところや楽しい遊びの様子などを写真で撮って、後に活用できるようにしておく。 ○必要に応じてグループ内で助言し合えるようにする。
8	3. おもちゃや飾りについて、工夫したことや遊び方を紹介し合う。(ワークシート) ・どんぐりゴマ広場は、回し方を教えた。 ・どんぐりの迷路は上手くできているよ。 ・落ち葉のお風呂に風の入り口を作ったら、おもしろくなった。 ・まつぼっくりのボーリングは、倒れにくいけど楽しいよ。 ・落ち葉のカルタ作り、成功したよ。 ・おなもみの的あてゲームは、近くで狙うとくつついた。	○作品のよいところや友達のよさなどをワークシートに記入する時間を5分程度設けるようにする。 ○どんな工夫が秋の遊びを楽しくする要因となったのかをテレビに映して全体で共有し、今後の活動につなげられるようにする。 ◎落ち葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを自分なりに工夫して作っているか。 (行動・発言・ワークシート) ●落ち葉や木の実を使ったおもちゃや飾りの工夫した作り方を見付けることができるように工夫している友達のやり方のヒントを提示する。 —② ○グループごとに回り、「なぜそのように工夫したのか」など工夫について問いかけ、よいところを認めていく。
8	4. 学習を振り返り、次時の活動の見通しを	○次時の活動でしたいことをワークシートに記

2	もつ。 ・コマの回るタイムを計りたいって言う友達が多い。 →タイムを計ってランキング表を作ったら、きっと喜ばれるよ。 ・〇〇さんみたいに、みんなが喜ぶカルタの言葉を考えたい。 ・ボールを重くすると、勢いよく転がる。 →ボーリングのボールを重くしてみたい。	入する時間を3分程度設けるようにする。 ○どうしてそうするとよいと思うのかを問いかけ、自分の思いや願いについて意識化させ、見通しにつなげていく。 ○次時への意欲が高まるようにする。
	友達と協力して、楽しいおもちゃを作ったよ。 もっと工夫したい。 できあがったら、早く遊びたいな。 他のグループのおもちゃも遊んでみたいな。	
2	5. 片付けをする。	

(4) めざす児童像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる。	C 努力を要する
落ち葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを自分なりに工夫して作ることができる。		落ち葉や木の実を使ったおもちゃや飾りの工夫した作り方を見付けることができ、理由を考え、友達に伝えることができる。	落ち葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを自分なりに工夫して作ることができる。	落ち葉や木の実を使ったおもちゃや飾りの工夫した作り方を見付けることができるように工夫している友達のやり方のヒントを提示する。(手立て)

(5) 板書計画

あつまれ！さぎぬまのもり		あきのものをつかって、おもちゃやかざりをつくろう。	
つくりたいもの ・どんぐりゴマひろば→ ・どんぐりめいろ → ・おちばトンネル → ・おちばのおふろ → ・まつぼっくりのボーリング→ ・落ち葉のカルタ → ・おなもみの的あてゲーム →		くふう タイムをはかる。 さかみちをつくる。 おちばのかべもつくる。 かぜのいりぐち ボールをおもくする。 しらべたあきのことば くつつきやすいものさがし イラスト イラスト イラスト	
		ともだちときょうりよくしたよ。 もっとくふうしたい。 はやくあそびたい。 ほかのグループのもたのしみ。	

1 1. 本時の指導（15／20）

指導者 2組 本間 祐也

（1）本時の目標

- ・アドバイスを取り入れてお店をよりよくしようと取り組んでいるか。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・アドバイスを後で見返せるように、6年生にワークシートに記入してもらう。

—②

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される児童の反応	●手立て ◎評価 ○留意点
2	1. 本時のめあてを確認する。 ・ 6年生を楽しませるぞ。 ・ 6年生からアドバイスをもらうよ。 ・ どうしたらお店がよくなるか考えるよ。	○活動の時間を多く取るために、会場の準備を事前しておく。
	6年生をお店に招待して、アドバイスをもらおう。	
20	2. 6年生に遊んでもらう。 ・ こっちのコーナーに来て。 ・ ここからゲームを始めてね。 ・ もっと人に来てもらいたいな。	○事前に6年生へ、よりよいお店になるようにアドバイスをしてもらうよう伝えておく。 ○遊んでいる途中におもちゃが壊れた時のために、直すための道具を用意しておく。 ○コーナー毎の特徴を掴んでおき、フォローできる体制を整えておく。
10	3. 6年生から感想とアドバイスをもらう。 ・ 看板の文字はもう少し大きくてもいいと思うよ。 ・ こんな景品があつたら嬉しいんじゃないかな。	○6年生全員のアドバイスを吸い上げられるように、感想・アドバイス用紙を用意しておく。
5	4. お店をやってみての感想と6年生からアドバイスを受けて、よりよいお店をつくるためのアイデアをまとめる。 ・ もっと景品を作ってみたいな。 ・ 目立つように看板は派手にしたいな。	○6年生からのアドバイスだけでなく、自分達のやってみた感想も踏まえて、パワーアップのアイデアをまとめる。 ○ワークシートを書きやすいように、机に代わるものを用意しておく。 ◎よりよいお店を作るためのアイデアを取り入れようとしているか。 (行動・発言・ワークシート)
3	5. 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・ 6年生に喜んでもらえて嬉しかったな。 ・ 今度は2年生を喜ばせるぞ ・ 自分のコーナーに来てもらえるようにしたいな。	●アドバイスを後で見返せるように、6年生にワークシートに記入してもらう。 —② ○6年生を招待して、実際にやってみた感想を共有させる。 ○気を付ける点も共有できるようにワークシートを準備する。

5	6年生からたくさんアドバイスをもらえたよ。 次は2年生を楽しませられるように準備したいな。	
	6. 会場の片付けを行う。	○すすんで片づけている姿を認める声掛けを行う。 ○体育館のステージ上に道具をまとめる。

(4) めざす児童像についての達成度

達成規準 \ 達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる。	C 努力を要する
よりよいお店を作るためのアイデアを得ることができる。	よりよいお店を作るためのアイデアを見つけ、次の改善に結びつけることができる。	よりよいお店を作るためのアイデアを得ることができる。	アドバイスを後で見返せるように、6年生にワークシートに記入してもらう。 (手立て)

(5) 板書計画

「あつまれ！さぎぬまのもり！～あきまつり～」

6年生からアドバイスをもらおう

会場図

12. 本時の指導（16／20）

指導者 1組 高木 美咲

（1）本時の目標

- ・お店をよりよくするための方法を考え、遊び方を工夫しているか。

（2）めざす姿を達成するための手立て

- ・お店をよりよくするための方法を考えることができるように、ほかのグループのよさを取り上げる。

—②

（3）展開

時配	学習活動と内容 予想される児童の反応	●手立て ◎評価 ○留意点
2	1. めあての確認をする。 ・6年生がこんなアドバイスをしてくれたよ。 ・もっと楽しんでもらえるようにお店をパワーアップさせる。	○パワーアップするところを明確にもたすことができるように、前時のアドバイスシートを掲示する。
	お店をパワーアップさせよう。	
20	2. お店をパワーアップさせる。 ・文字を大きくすると見やすいとアドバイスをもらったよ。 ・ゲームが難しかったから、2年生に向けてもう少し的を大きくして簡単にしよう。 ・景品の種類を増やしたら、もっとゲームに挑戦してくれて喜んでもらえそう。 <ポイント> 1 おもちゃ（やってみたい・楽しい） 2 ルール（わかりやすい・楽しい） 3 お店（気になる） 4 楽しんでもらえる工夫	○主体的にパワーアップできるように、前時のアドバイスをもとにして、お店をもっとよくするためにどこを手直しするとよいかについて、目安となるポイントを提示する。 ◎お店をよりよくするための方法を考え、遊び方を工夫しているか。 （行動・発言・ワークシート） ●お店をよりよくするための方法を考えることができるように、ほかのグループのよさを取り上げる。
10	3. ほかのグループと遊び合う。 ・おちばかりたむずかしくておもしろいね。 ・どんぐりめいろくねくねで楽しい！	○ほかのグループの遊びを体験し、パワーアップしたよさや楽しさを伝え合う時間を設ける。
3	4. 気付いたことを伝え合う。 ・100点を取ると秋の実の景品がもらえてうれしかったよ。 ・いろいろな種類の秋の実についての紹介があつて楽しかったよ！ ・的が小さくて難しかったけど、ねらうのが面白かったよ。	○どこをパワーアップさせたのかに注目させてから、グループ同士で遊び合うようにする。 ○パワーアップして楽しかったお店には、シールを貼ったり、コメントを残したりして、視覚的にもお互い認め合う場を用意する。

10	5. 学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 ・パチンコでどのどんぐりを転がしたいか選べるように種類を増やしたよ。 ・秋の森みたいにトンネルの天井にも落ち葉を貼ってみたよ。 ・〇〇さんのお店はルールの説明が書いてあってわかりやすかったよ。 ・楽しんでもらえてうれしかった。 ・秋祭りがとても楽しみだよ。 ・2年生が楽しんでもくれるといいな。	○パワーアップ前（写真）とパワーアップ後（実物）を比較して見せながら工夫を全体で共有する。 ○次時への意欲が高まるようにする。
----	--	---

みんなでお店をパワーアップさせたよ。

2年生を招待するために、準備をするぞ。

（４）めざす児童像についての達成度

達成規準	達成基準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる。	C 努力を要する
お店をよりよくするための方法を考え、遊び方を工夫している。		お店をよりよくするための方法を考え、友達と比べたり、話し合ったりしながら、遊び方を工夫している。	お店をよりよくするための方法を考え、遊び方を工夫している。	お店をよりよくするための方法を考えることができるように、ほかのグループのよさを取り上げる。（手立て）

（５）板書計画

あつまれ！さぎぬまのもり！～あきまつり～	〈パワーアップ〉 ボール どんぐりのしゅるいをふやした。 かんばん おちばでもじをつくってみた。 けいひん 100 てんとれたらけいひんをあげる。 けんだま ひもをながくしてすこしむずかしくしてみたよ。
おみせをパワーアップさせよう！	
〈ポイント〉 1 おもちや 2 ルール 3 おみせ 4 たのしませるくふう	